

「はじめてのキリスト教」説教要旨
イエス、この道しかない！

(ヨハネ一四・六)

年末に行われた総選挙。勝者は「景気回復、この道しかない」のキャッチフレーズで、アベノミクスの継続を訴えた自民党。しかし彼らの公約を読んでいくと、頻出する文字列は「取り戻す」である。勿論、過去を取り戻した上で前進すると言う意味もあるのだから、発表されている種々の政策を見てみると何か「高度経済成長よまたび」的な臭いが漂っているように思うのは私だけではないだろう。深刻な人口減少社会とグローバル化の中で古いモデルに固執しては真の活路は開けないのではと不安になる。

閑話休題。先ほど読んだ箇所においてイエスは自らを「道」と呼び、父なる神と共に生きる「道」は自分にしかないと言っている。まさに「景気回復もとい、イエス、この道しかない」である。以下イエスについて三つの事を学びたい。

一、神から来た「道」であるイエス

現代は便利な時代で、インターネット

を使って簡単に物事を調べることが出来るが、そこで「イエス」について調べると二つの見出しが存在することが解る。一つは「ナザレのイエス」であり、もう一つは「イエス・キリスト」である。前者の記述はいわゆる歴史上の人物としてのイエスに関する記述である。つまりこの記述は人間としてのイエスにのみ重きを置いている。だが聖書が証言する所によれば、このイエスは普通の人とは異なり、もともとは父なる神と共に世の成らぬ先からいた子なる神であり、私たち人間をあらゆる罪と苦しみから救うために、父がこの地上に送って下さったお方なのである。多くの宗教は自ら神に近づこうと様々な修行をする。だが聖書は神の側から、人間の方に救いのかけ橋をかけて下さったと言うのである。

二、神へと続く一本道であるイエス

ご自身が神へと続く道であり、それがゆえに神の真理そのものであり、神のいのちであることを語ったイエスはこの個所で「わたしを通して出なければ、だれひとり父のもとに来ることはありません」と語る。イエスは自らを「この道しかない」とし、真理でありいのちである神にであう為の「唯一無二の存在」だと主張しているのだ。こういうとある人は思うかもしれない。曰く「それではあまりに排他的ではないか」「きつと他にも道があるはずだ」と。しかし人間がそのまま神のもとに近づくことは残念ながら出来ない。その理由は私たちの内に巣食う罪深さである。神は正義の方であるから、我々がどれほど善を積もうとも、犯した罪を見過ごされることはない。だが同時に愛なる神はその愛のゆえに人間を救う道を作ろうと御子を遣わされたのだ。私たちはその道を歩みさえすれば良いのだ。

三、「ヘルパー」を用意するイエス

だが「この道を歩め」といっても、もしそれが単独行であったとすればどうだろう。きつと不安になることもあるだろうし、引き返したくなることも出てくるに違いない。第一、イエス自身が「いのちに至る道は細い(マタイ七・一四)」と言っているから前途多難が予想されるようにも思われる。だが心配はご無用。なぜならこの個所の後には何とイエスが父に「もう一人の助け主」である聖霊を弟子たちに与えることを約束しているからである。つまり真理といのちへの一本道であるイエスの道を歩くとき、私たちは常にイエスが与えて下さるもう一人の助け主である聖霊の力に助けられ、支えられ、助言を受け、力づけられて歩むことが出来るということである。イエスの道は真理へ続く道である

と同時に、あらゆるアシストが備えられているのである。何とも心強いではないか。

* * *

大学野球で首位打者一回、ベストナインは四回の実績を引つ提げてプロ野球選手になった彼を待ち受けていたのは監督からの激しい叱責だった。生真面目な彼はストレスからイップスや突発性難聴に悩まされ外野手へコンバート。その後攻守の外野手として活躍するも、野球を楽しむことが出来なくなってしまう。彼にとつてそれはつらい仕事でしかなかったのだ。しかしそんな彼にも転機が訪れる。メジャーに移籍して程なく、チームメイトから信仰を勧められた。英語はあまり解らなかつたが、身振りに歌にダンスとあらゆる手段をつかつてジーザスを伝える熱心さに心動かされ、彼はイエスに興味をもつた。そして〇三年の秋、彼はイエスを救い主として信じた。彼は言う。「ジーザスがすべてを背負ってくれるから、今は野球が本当に楽しいのです。」彼の名は田口壮。〇〇年代のカージナルスを代表するクラッチヒッターである。友よ、イエスは単なる偉い人ではない。神の元からきて、私達を神へと導く唯一の道であり、私達を時々刻々助けてくれる友なのだ。この道しかない。この道を歩もう。アーメン。